

就任のご挨拶



望洋会会長
二〇〇〇年代表役員
中島 和洋

風薫る季節となりました。皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、第七代望洋会会長の重責を拝命することになりました中島 和洋です。就任に際しまして一言ご挨拶を申し上げます。

「望洋会」は、市原望洋高等学校の後援会の卒業生並びに教職員の皆様とで築かれた組織です。その歴史は、今日までの諸先輩方の努力により築かれ、市原望洋高等学校と共に歩みながら育んできた時の積み重ねそのものであります。これも偏に教職員並びに関係各位の皆様のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

「望洋会」は、現役の後援会・教職員の皆様、生徒さんの応援団です。常に現役の皆様と「付かず離れず」の関係を保ちつつ、これからも寄り添える会でありたいと考えています。そして、市原望洋高等学校の発展に少し

でもお役に立つ組織であり続けたいと願っています。

結びに、退任される浅岡 厚会長をはじめ役員の皆様には、コロナ禍での望洋会活動のご苦勞に心より感謝申し上げますと共に今後とも変わらぬご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

役員一丸となって「応援団」・「寄り添える会」を目指して活動を進めたいと思います。

どうぞ、皆様方のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

着任のご挨拶



第九代 校長
飯田 雅美

四月より校長として赴任いたしました飯田雅美と申します。本校に赴任する前の三年間は、東海大学付属大阪仰星高校で副校長として勤務していました。私は、二〇一四

年度の一年間、教頭として本校に勤務した経験がありますので、九年ぶりに戻ってきたことになりました。九年前に勤務していた時との違いは、立派な人工芝グラウンドができています。三号館のリニューアルがなされ、校舎内がとてきれいな環境になりました。ICT機器の整備もなされていたことです。まだまだ改修が必要な箇所は残っていますが、生徒たちが普段使う施設が整い嬉しく思っております。

また、九年前と変わらぬ豊かな自然と静かな教育環境は、学園の中でも一番だと思っております。都会の学校にはない環境に、心癒される思いです。

私は、今までに本校以外に六校の付属高校と法人本部に勤務した経験がありますので、これらの貴重な経験を活かし、本校が更に発展できるように、教職員をはじめ、生徒・保護者・同窓会・地域の皆様と協力しながら学校運営を行っていきたく思っております。

そして、何より本校の特筆すべき後援組織である望洋会の皆様の豊かな見識や経験、地域関係者との繋がりなどのお力をお借りしながら、少子化や都市部への人口集中による地方の人口減少など様々な困難に対し、立ち向かっていく所存です。

さて話は変わりますが、九年前に赴任した

際の忘れられない思い出を紹介したいと思えます。一つ目は野球部の夏の甲子園初出場です。寮を持たない本校が千葉県大会で躍進し、優勝をすることができました。優勝を決めてから甲子園出場までの短い期間で応援体制や交通手段の確保、市長をはじめ関係各機関へのご挨拶など、裏方として奔走したことを今でもはつきりと覚えています。二つ目は、望洋会の皆様とご一緒させていただいた裏磐梯・会津若松方面への旅行です。系賀元会長をはじめ、望洋会の方々と楽しい時間を過ごさせていただいたことは、深く心に刻み込まれています。

最後になりますが、望洋会の皆様方からの本校教育活動に対するご支援、ご協力に心からの感謝を申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



事務長

鳴島 和夫

市原望洋高校に着任して、学校運営は様々な

方々に支えられて成り立っていることを再認識しました。地域、市役所、後援会、スクールバス運転手、用務警備員、食堂売店とたくさんの方々に様々な場面でご支援いただいています。

そして、「望洋会」会員の皆様には、ご子女が卒業されてからもご支援をいただいています。心より感謝申し上げます。

私個人としては、「望洋会」にはご縁を強く感じております。趣味で行っているソフトボールの審判関係者が会員の方のご近所さんであったり、お姉様が、私の娘の通っていた小学校の校長先生であったりと、市原望洋高校の引き寄せる力の強さを感じます。

本校の生徒は、挨拶、掃除そして人を思いやることが得意です。これは、社会に出てからとても大事なことであり大切なことです。生徒たちには得意なことをさらに伸ばせるよう指導し、本気でしっかり人生の準備をして、社会に羽ばたいてもらいたいです。そして、生徒指導にとっても熱心な先生方は本校の誇りです。

この素晴らしい学校の魅力をもっと地域の中学生や保護者の方にお伝えしていきたいと思えます。望洋会の皆様には、本校の教育活動に引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

退任のご挨拶



望洋会前会長

浅岡 厚

会長という大役を仰せつかり、何の恩返しも出来なまま、今総会をもって無事退任となりました。

あつと言ふ間の二年間でしたが皆様に支えられながら、何とか勤め上げることが出来ました。

最初の一年はコロナ感染症対策により活動の自粛がとめられ、全ての行事が中止となり、会議すらほとんど開けない状況でした。二年目は多少の緩和により感染リスクの低い行事について対策を取りながら皆様の協力の下開催することが出来ました。ほとんどの行事が3年ぶりのため段取りを忘れたり、思い出せなかったり、行き当りバッタリでしたが無事終了することが出来ました。これもひとえに皆様方のご協力があればこそ心より感謝申し上げます。

会員及び役員の皆様に於かれましては中島新会長を中心に学校・生徒たちにとってより良い環境整備にご尽力いただければ幸いです。

結びに、東海大学付属市原望洋高等学校ならびに望洋会の更なる発展を祈念すると共に、皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

市原今昔物語 V 「八幡編」

二〇〇二年代表役員 西村 和男

「八幡」の名の付く神社の数が市原市内にどれだけあるのか千葉県「神社名鑑」で数えてみると、何と二十社ありました。

JR八幡宿駅前の「飯香岡八幡神社」は、京都八幡市に鎮座する石清水八幡宮の末社で、神社と寺院がともに存在する神仏習合の代表的な寺院形式であり、上総では「飯香岡八幡神社」であり、下総では、市川市の「葛飾八幡神社」の二社となります。この「飯香岡八幡神社」が「八幡」の地名の由来となっています。

この神社の神事として「柳楯」が有名です。「柳楯」は古代の守り神、龍になぞられ海の神の化身で、「国府」との関係があると考えられています。代々世襲で受け継がれた市原地区の二軒の司家(つかさけ)によって、柳枝二十五本を藁で青竹五本に結び楯を作り、町会役員が担いで旧官道の約二キロメートルを徒歩で移動し、五所地区で一泊、二日間かけて神社に運び、奉納して大祭が始まります。柳楯が神輿の先導をして町内を巡行し、クライマックスは、八幡浜の海の中に建てられた鳥居まで神輿が進み、海水に浸かるという古来の海洋民族の名残ともいえる大祭が極最近まで行われてきました。

かつての八幡浜は、五大力戦の往航が活発で、農林漁業の盛んな宿場町として栄え、上総の経済の中心地でした。

しかしながら、政治と文化の融合、社会情勢の変化は

一日をもって千日の変化となるほど目まぐるしく変化しました。明治四年の廢藩置県で幕府領八幡村が「菊間県」となり、同年第一次統合で「木更津県」へ、更に、明治六年「木更津県」と「印旛県」が統合して「千葉県」が発足しました。一方、菊間県に属した八幡村は明治七年に八幡宿に改称。十一年には市原郡に属し、二十二年の町制法で八幡町となり、昭和三十年三月に八幡町と菊間村が合併し、市原町へ。昭和三十五年五月一日市原町、五井町、姉崎町、三和町、市津町が合併し、市制を施行し「市原市」が誕生しました。

明治初期と今日とではどのように違うのか。人々はその時代時代を一生懸命生き抜く営みを行い、次の時代につなげてきました。「八幡地区」はまさに歴史の上の中に生まれ、生き抜いてきた地域です。

産業の発展は、常に海から始まります。

昭和三十二年に八幡浜の埋め立てが始まり、漁業権の放棄が行われ、海上交通である東京湾フェリーの川崎・八幡間の運行も終了しました。埋め立て地にはコンビナートが形成され、造船、電線、電気部品、サッシ、倉庫業等が新産業として生まれ新たに世の中に送り出されてきました。

一方、二〇二一年三月、「三井造船」が造船業から完全撤退し、新たに物流・エネルギーに特化した企業として生まれ変わり、時代のニーズを常にキャッチしながら経済活動を続けています。

「八幡地区」は、日本の歴史とともに歩み、発展と成長

を遂げてきたと言っても過言ではなく、時代の一步前を行く土地柄で先見性と進歩感が薫り、明日に向かうエネルギーが溢れている場所です。

千葉県政五十年、市原市政六十年を迎える今年、次なる時代に向かうための政策が各地で進められています。私たち一人ひとりの歩む一歩が時代を創ると思えてなりません。

五編にわたり「市原今昔物語」にお付き合いをいただきありがとうございました。

市原望洋高等学校がかつての古墳群の傍に位置することや、国分寺台の歴史的建造物に興味を抱かれた方は、ぜひとも市原望洋高等学校の隣に二〇二二年十一月にオープンした「市原歴史博物館」を訪問してみてくださいいかがでしょうか。

体験型施設を併設し、市原の歴史遺産の価値と魅力を分かりやすく伝え、市民の歴史・文化活動や交流を支える拠点施設となっています。

市内で発掘された遺物や資料のみで表現され、ほとんどの展示品が実物である点が大きな特徴となっています。

なかでも「王賜銘鉄剣」は、佐倉市の「国立歴史民俗博物館」から約三十年ぶりに発掘された市原の地にもどり、国内最古の有銘鉄剣として名高い展示物の一つとなっています。

*住所 市原市能満一四八九

*電話 〇四三六・四一・九三四四

*開館時間 九時～十七時 *休館日 月曜日

浅岡会長、二年間 大変お疲れ様でした♪



二〇二二年度 望洋会総会

令和五年五月十四日(日)、松前記念講堂において望洋会総会が開催されました。清水元校長、細野元教頭、黒坂元校長、櫻井元事務長のご出席のもと、和やかな雰囲気ですべて無事終了致しました。

今年度は、役員改選の年であり、左記の役員の皆様が選出・承認され、二〇二二年度望洋会がスタート致しました。

- 会 長 中島 和洋
副会長 西村 和男・岡本 優・加藤 吉弘
酒巻 誠・濱田 淳子 (敬称略)

*皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げます。



楠下整地作業

六月四日(日)午前九時より、楠下整地作業を行いました。新体制になり、中島新会長を中心として、総勢十一名(望洋会九名+飯田校長先生・鳴島事務長)で作業を行いました。

暑い中、ベテランが草を刈り、校長先生とともに必死に熊手で草を集めました。そして、事務長が軽トラック・他の会員がリヤカーを引き、雑草を運ぶというバランスのとれたチームワークで大変キレイになりました。



～今後の行事予定～

- 7月15日(土) 合同暑気払い
- 9月 9日(土) 研修視察
- 10月・11月 楠下整地作業
- 11月23日(祝) 望洋杯ゴルフコンペ
- 2月未定 企画委員会
- 3月2日(土) 卒業式

編集後記

今回の総会にて、浅岡会長が任期満了となり、中島新会長が就任されました。浅岡前会長には、コロナ禍で難しい判断が求められる中、「尽力頂き、本当にありがとうございました。これからも、バトンタッチされた中島新会長と共に、望洋会の活動報告をお知らせしていきたいと思っております。